

# 未来

人権教育啓発シリーズ NO.1



この「未来」は、学校で進める人権教育を御理解いただくとともに、子供も大人も、共に人権意識を育てていく一助としての啓発紙です。本年度も様々なテーマで作成していきますので、お読みいただければ幸いです。今回のテーマは「コロナ禍での人権に関する問題」です。

## 「新型コロナウイルス」がもつ「3つの“感染症”」

新型コロナウイルスによる感染が拡大しています。今まで当たり前だと思っていた生活が一変してしまう事態にもなっています。このような中で、感染者やその家族、医療従事者などに対する差別が問題となっています。このようないじめなき差別はどうして生まれるのでしょうか。どうすれば差別をなくすることができるのでしょうか。以下の資料をご紹介します。

©日本赤十字社(2020)「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!~負のスパイラルを断ち切るために~」より一部抜粋

④ **第2の“感染症”にふりまわされないために**  
不安や恐れは私たちの**気づく力**を弱めます。**自分を支える力**を弱めます。不安や恐れは身を守る為に必要な感情ですが、私たちから力を奪い、冷静な対応ができなくなることもあります。

⑤ **第3の“感染症”をふせぐために**  
不安を煽ることは病気に対する偏見や差別を強めます。「確かな情報」を拡めましょう。差別的な言動に同調しないようにしましょう。

⑥ **まとめ**  
3つの“感染症”をみながら、乗り越えていくために。このように、新型コロナウイルスは、3つの“感染症”という顔を持って、私たちの生活に影響を及ぼします。このウイルスとの戦いは、長期戦になるかもしれません。それぞれの立場でできることを行い、みんなが一つになって負のスパイラルを断ち切りましょう!

① **3つの“感染症”は どうつながっているの?**  
この“感染症”の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながることで、負のスパイラルで“感染症”が広がる。①未知なウイルスが多いため不安が生まれる。②人間の生き延びようとする本能によりウイルス感染にかかわる人を遠ざける。③差別を受けるのが怖くて熱や咳があっても受診をためらい、結果として病気の拡散を招く。第1の“感染症”「病気」→第2の“感染症”「不安」→第3の“感染症”「差別」

② **なぜ、嫌悪・偏見・差別が生まれるのか**  
見えない敵(ウイルス)への不安。特定の対象を見える敵と見なして嫌悪の対象とする。嫌悪の対象を偏見・差別し遠ざけることでつかの間の安心感が得られる。本当の敵を見なくなる。敵がすり替わってしまふ。敵はウイルス。××人だ、危ない。△△地区は危ない。でも私もいつ言われるかわからない…あんな…あんなこと言っちゃったけど…

③ **皆さんも、ウイルスに関する悪い情報ばかりに目が向いていたり、なにかとウイルスに結び付けて考えたりしていませんか?**  
「あの地域はコロナが流行っているからあそこのものを買うのはやめよう…」  
「熱があるけど怖いから黙ってよう…」  
このように思い、行動することから“感染症”は広がっていきます。**これらの“感染症”をふせぐために私たちがどのような工夫ができるでしょうか?**



差別やいじめは決して他人事ではありません。私達一人一人ができることを行い、お互いを大切に  
する社会をつくっていくことが大切なのではないでしょうか。そのためにも、大人が子供たちに「差別  
やいじめは絶対にしない」というお手本を見せることが重要です。

公益財団法人人権教育啓発推進センターでは、「STOP! コロナ差別—差別をなくし正しい理解を一キャンペーン」

<http://www.jinken.or.jp/> を展開しています。検索してみてください。

日光市人権教育推進委員会 ※ いまいき栃木っ子3あい運動…学びあい・喜びあい・励ましあおう